

# 緑閃光とその観測

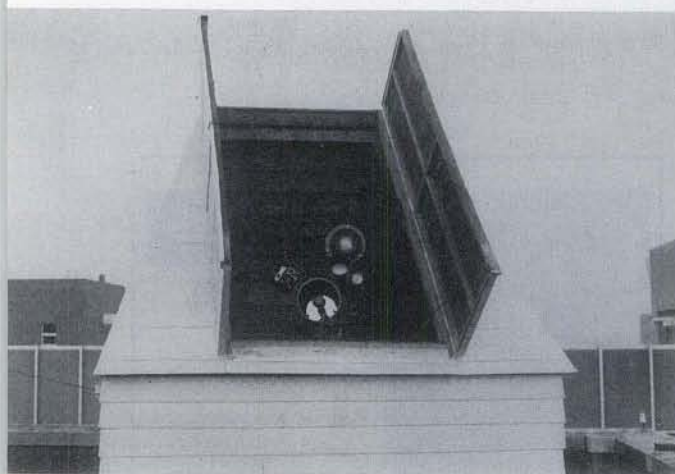
(表紙及び本文 43 頁参照)



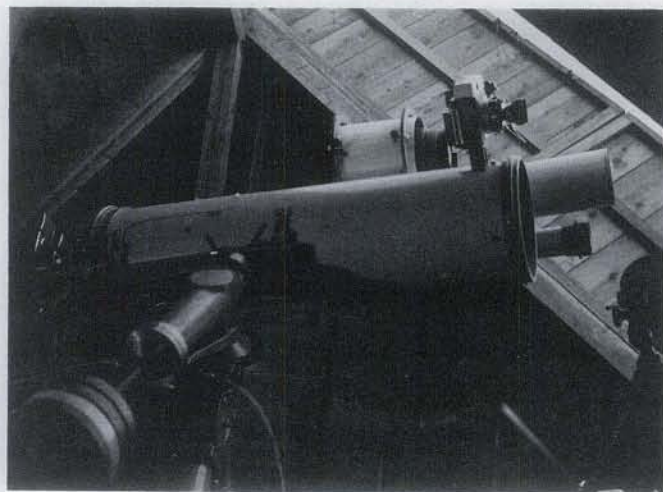
▲ 九州大学観測所 (九州大学農学部農業気象学教室屋上)



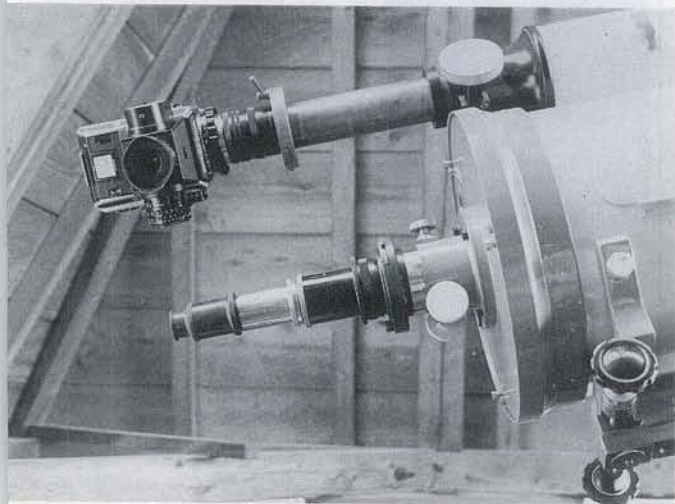
▲ 観測室外観  
(左は主観測室・木造ドーム 1949 年設置)  
(右は副観測室・木造 1959 年設置)



▲ 観測室と望遠鏡

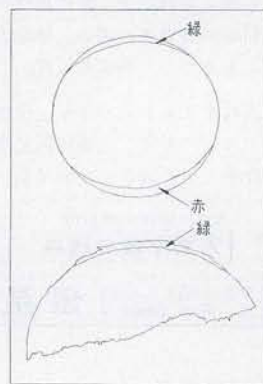


▲ 観測装置 (右に経緯儀がみえる)



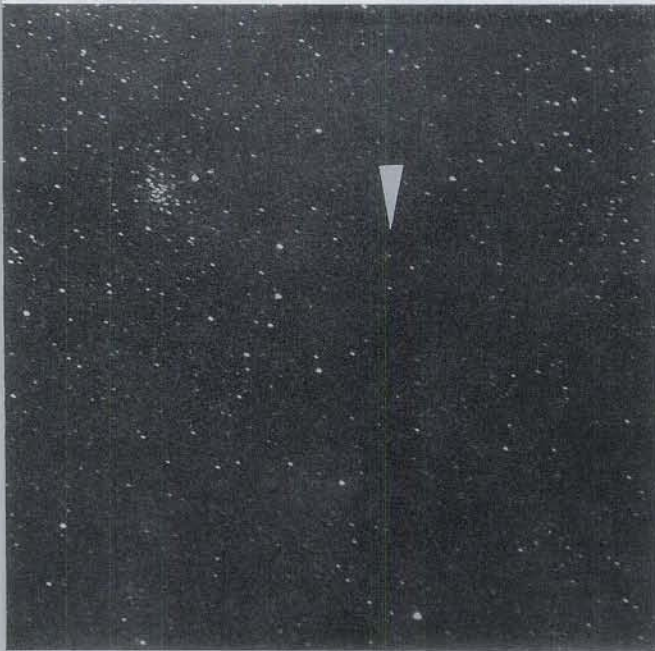
▲ 接眼部外観 (上方が 11.5cm 屈折鏡)  
(下が 31cm 反射カセグレン)

表紙説明 2

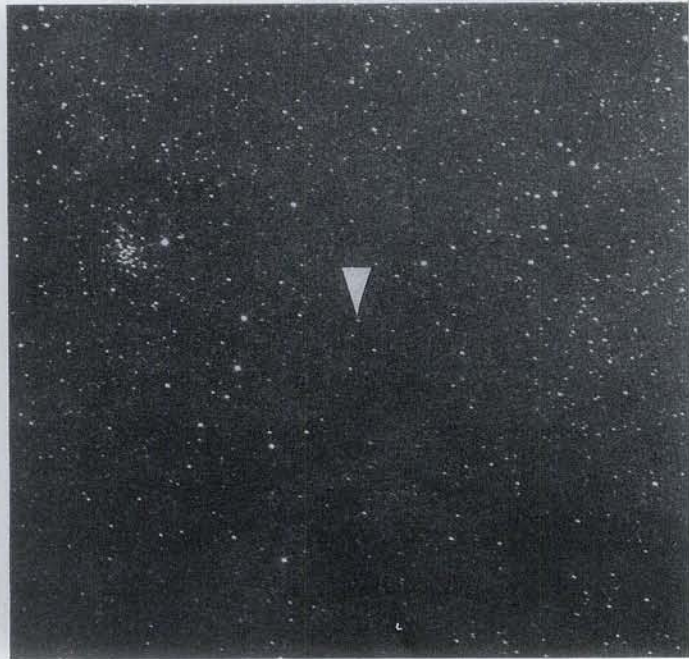


# 1974年射手座新星

(桑野善之氏撮影)



1974年9月15日 19<sup>h</sup>48<sup>m</sup>~51<sup>m</sup> (J.S.T.) ニコンF, f=105mm  
F/2.5 Tri X バンドール 20°C 15分, 写っていない



1974年10月6日 19<sup>h</sup>36<sup>m</sup>~39<sup>m</sup> (J.S.T.) ニコンF, f=  
135mm F/2.8 Tri X バンドール 21°C 15分, 写っている。

## 東京天文台一般公開

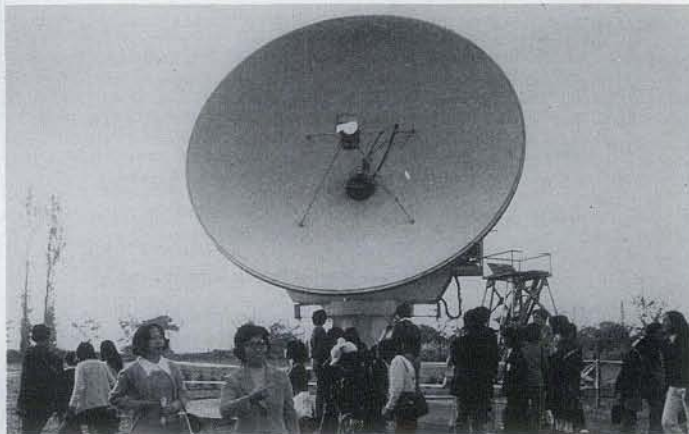
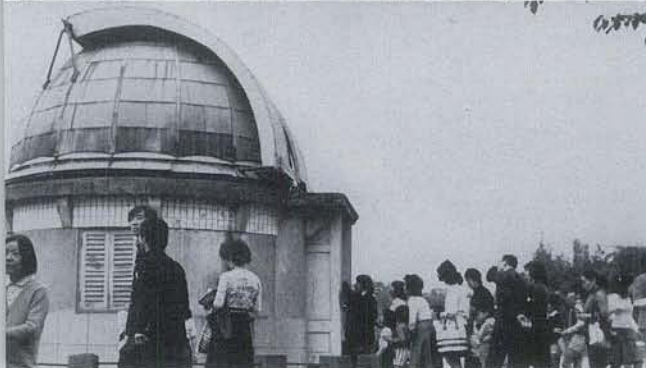
東京天文台一般公開が本会後援のもとに、1974年10月26日午後おこなわれ、参観者約4,000人で盛会であった



◀ 本館ロビーで展示を見る参観者

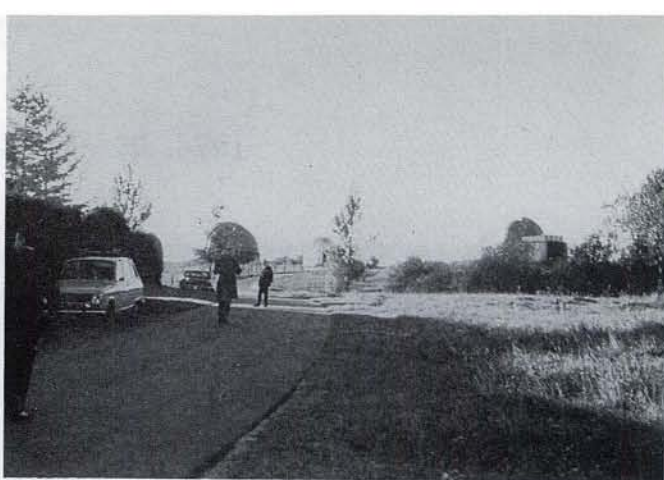
▲ 30cm 反射鏡の前でできた行列

▼ 6m ミリ波電波望遠鏡

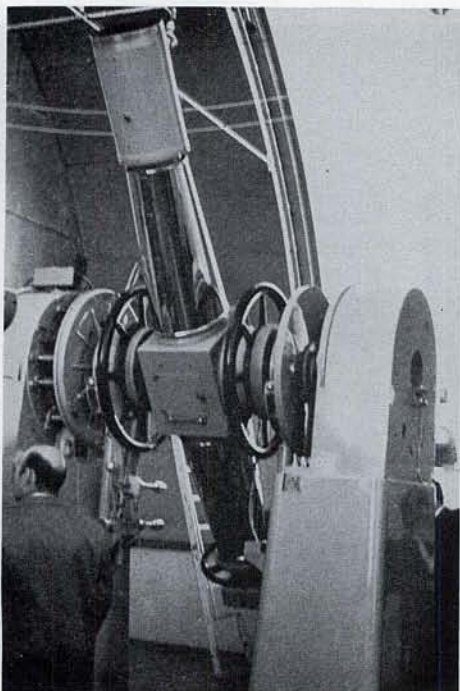


## ヨーロッパの天文台 II

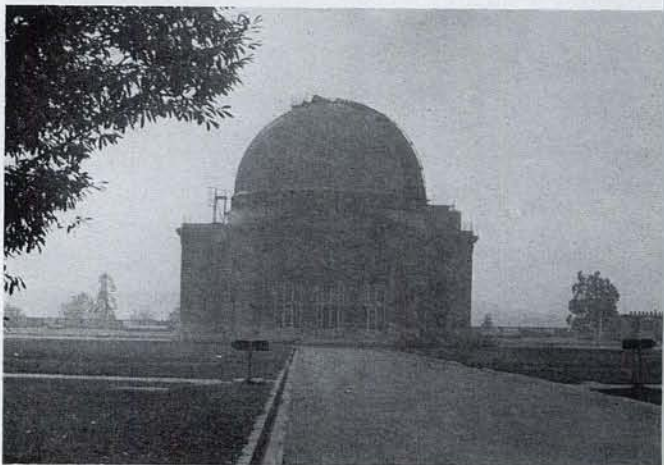
①



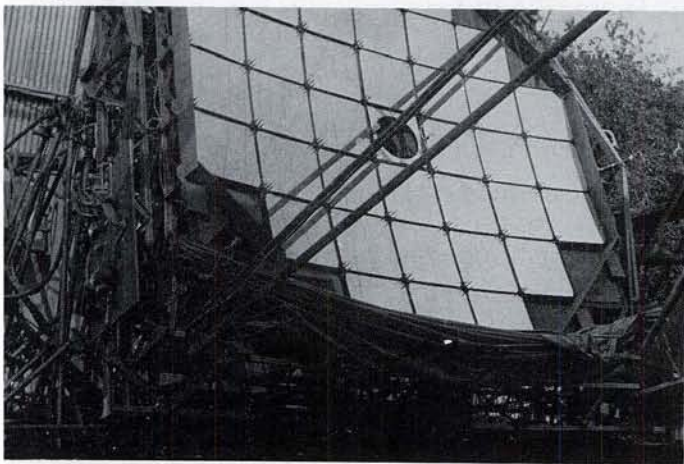
②



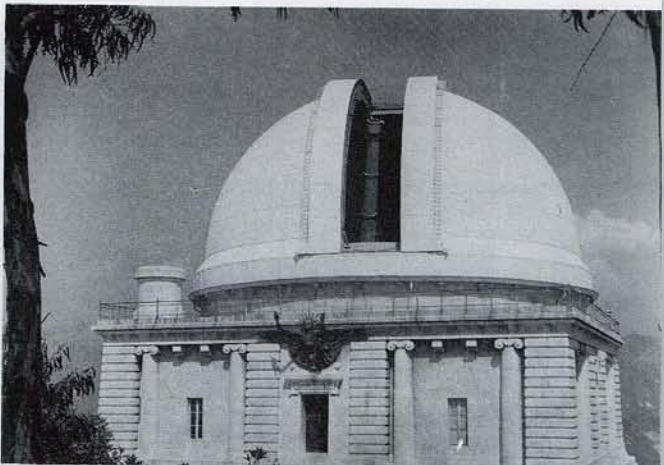
③



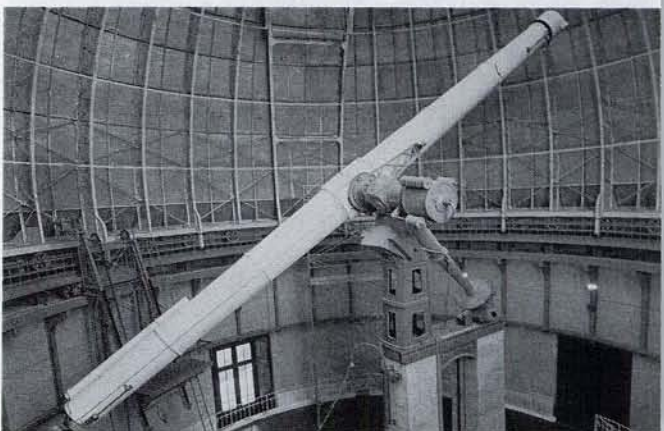
④



⑤



⑥



- ① デンマーク・コペンハーゲン天文台。コペンハーゲン西方約 40 km の平坦なシælland島の中央部にある。
- ② 独自の工夫で開発された 20 cm 写真子午環
- ③ フランスのムードン天文台。1893年完成の口径 83 cm の世界第三位の屈折望遠鏡の入っているドーム。
- ④ 3.5 m 赤外干渉用モザイク望遠鏡。ムードン天文台はパリ市街から西へ約 10 km の所にある。200 名余りの人が働いていて、歴史も古い世界有数の天文台の一つである。
- ⑤ ニース天文台のガルニエの設計による石造りの建物。可動部のドームはエッフェルの設計。望遠鏡は 76 cm 屈折式、建設後 2 年間は世界最大を誇った。現在も実視連星の測定に使われている。
- ⑥ ドーム内部、76 cm 鏡を覗いているのはクートー氏。